

## 打放しコンクリート再生技法を伝授 第6回・K2ワークショップ

ピアレックス・テクノロジーズ（本社・大阪府泉大津市、社長・北村透氏）が開発した光触媒フッ素コーティング材の責任施工組織「K2コーティング・マスターズ」は8日、大阪市内のホテルで第6回会議を開催した。今回は、コンクリート打放し調仕上技法の修得による新たな仕事の創出など、領域拡大へ向けた提案がなされた。

会議の冒頭であいさつに立った小山秀樹会長（岡山・小山塗装）は、「今回新たに1社が加わり総勢27社の体制となりました。ゼネコン主体、設計主体、直需型、サイディング業など多種多様なメンバーが集う中で、『顧客創造』を共通の目標とし、ベクトルを合わせていきたい。顧客創造、つまりマーケティングとイノベーションを共通の課題とし、そこへ向けた中身の濃い議論と活動を行ってきたい」と今後へ向けた活動方針を述べた。

メーカーのピアレックス・テクノロジーズは「メンバーにとって有益な営業ツールのショップになりたい」との思いから、今回から「K2ワークショップ」に会議の名称を変更。会議の中でメンバーの柔軟なアイデアや意見を引き出せるよう“場づくり”のプロデュース会社を進行役に用いるなど新たな手法を取り入れ、会議そのもののイノベーション（革新）も試みた。

今回の会議の目玉は打放しコンクリートの再生工法「G-PFシステム」の



打放し調描画を体験

技術研修。ジャンカやエフロ、経年の雨筋汚れ、変色など老朽化したコンクリート面を再生させる特殊技法で、ピアレックス・テクノロジーズはこの分野で技術的な信頼が高い。

研修では、ペース色混合の秘訣、コンクリート調模様の描画技法などの勘所をインストラクターが分かりやすく実演。特殊ツールを使っての体験研修にメンバーからは「思っていたより簡便。フッ素塗料による耐候性、更に独自の光触媒コーティングと組み合わせることで他との差別化も明確。早速実践で使える」と反応は上々。

また会議プログラムのメンバー報告会では、既に同工法を取り入れているメンバーが活動内容を報告。「設計ルートの開拓に非常に有効。更にコンクリート打放しの高額物件を受注でき付加価値の高い事業展開が可能」と具体例を示しながら報告、参加各社はモチベーションを高めていた。

光触媒コーティングを核に顧客創造、需要創造へ向けた活動が本格化してきた。